

事例紹介

くろさわ かつえ
黒沢 勝江 長野県須坂市

事例紹介のアーカイブ視聴はこちらから：

事例紹介インタビュー



エイジレス章
黒沢勝江
長野県須坂市

[ナレーション] 元須坂市の集団給食の調理員として、長年にわたり食と向き合ってきた黒沢さん。現役引退後、須坂市食生活改善推進協議会に所属し、会長を8年間務めました。そこでは、具だくさん味噌汁や、身近な食材を使った栄養バランスの良い、まごわやさしい弁当など、減塩と健康的な食事の普及に取り組んできました。さらに、郷土料理スペシャリストとしても活動し、小中学生たちに郷土の味を通じて、食文化を伝え続けています。

Q：活動を始めたきっかけ

私がこの協議会に入ったきっかけは、20数年、須坂市の学校給食や、保育園給食の集団給食調理を経験したもので、それでボランティアをやるなら、食に関するようなボランティアをしたいと思って入りました。

Q：活動内容について

活動内容としては、学校の菜園で採れた野菜を使ったお料理、例えばさつまいもが取れればさつまいもの料理や、ジャガイモ、また大豆が取れれば大豆を使ったお豆腐作りなども、学校の方へ依頼されて行っています。それから、郷土料理は、おやき、やしょうま、にらせんべい、笹寿司等々、いろいろな郷土料理を皆様から要請があって教えに行っています。そして、須坂市の全小学校の3年生に食育の授業として管理栄養士さんのお手伝いに学校を回っています。

Q：今後取り組みたいことについて

食改については、生涯続けていきたいと思っております。また、それだけではつまらないので、昔やっていた書道やカメラなど、もう一度やりたいと思っております。



事例紹介

よしなか やすまろ
吉中 康麿 広島県広島市

事例紹介のアーカイブ視聴は[こちらから](#)：

事例紹介インタビュー



エイジレス章
吉中康麿
広島県広島市

[ナレーション] 広島が大好き、人が大好き。この思いを人生の軸に歩んできた吉中さん。幼い頃に父から「人に喜ばれることをしなさい」「嫌だと思うことは人にしないように」と言われ、その教えを大切にしてきました。市役所の面接では、「市民の声に耳を傾ける親切な公務員になりたい」と語り、その思いは今も変わらず、ボランティア活動へつながっています。

Q：活動エピソードについて

私は、ボランティアの中で一番今まで力を入れてきたことの一つに、国際親善というものがあります。観光課長時代に国際観光の必要性を随分感じておりましたので、今まで仲間を集めて、いろいろな国に行きました。一番今中心になっているのは、ウィーンです。10年前に広島の被爆した石を使ってモニュメントを作りたいので、石を提供してくださいというのが、ウィーンの市長からあり、立派な平和のモニュメントができました。その日を記念して、9月15日をJAPAN DAY、広島DAYとして、いろいろな催しをするのでぜひ来てくださいということで、10年間続いておりますが、私はそこに4回ほど、いろいろな人と一緒に活動しております。

Q：人生のテーマについて

もう一つの私の、人生のテーマの一つに、「街を美しく清潔に」というものがあります。25年前に、本通りという中国・四国で一番の商店街があるのですが、そこがもう本当に荒れていたのです。何人かの友達に声をかけて、毎月第2土曜日の7時に集まって掃除をしようと。今は、ゴミを探すのが大変なくらい、きれいな街に変わってきました。昔は1時間のうちにゴミ袋が5つも6つもあったものが、今は2つで済むようになりました。というのは、商店街の人がそれを見てかどうか分かりませんが、自分たちの店の前は自分たちで掃除をしようという、そういう風土が生まれてきて、本当にきれいになってきたなという印象です。

Q：今後の活動について

私がもう一つ、人生のライフスタイルで求めているのは、若い人を育てることがあります。それで吉中康麿といいますから、その麿を取ってマロン塾というものを、25年ぐらい前からやっているのですが、若者に集まつてもらい、いろいろ話合いをする、そして行動を起こす。いかにシニアの人が頑張ってきたことを、若い人たちがボランティア活動に目覚めて、それを引き継いでくれるか。そういう組織づくりといいますか、後継者づくりが、重要なことであろうと思っております。



事例紹介

ボランティアむつの会 渡部 わたなべ てつ(会長)、菊池 きくち さとよし 三十義 (事務局長) 青森県むつ市

事例紹介のアーカイブ視聴はこちらから :

事例紹介インタビュー



社会参加章
『ボランティアむつの会』
青森県むつ市

[ナレーション] ボランティアむつの会は、昭和50年4月1日に設立され、本年で50年目を迎える長寿のボランティア団体です。団体の発足は、昭和50年に青森県がボランティア活動の普及を目的に開催した講習会がきっかけでした。長年にわたる継続的な取組により、県内で最も歴史のあるボランティア団体の一つとして広く知られています。

Q : 活動理念について

本会は、学ぶ、楽しむ、奉仕する。この3つが活動基本方針となっております。つまり、成長するには学びが必要。活動を続けるには楽しさがなければダメ。そして奉仕の心があってこそ、心豊かな人生を送られるという考えに基づいております。

Q：日頃の活動について

日頃の取組、高齢者施設慰問活動、子ども食堂の開設、認知症サポート、行政事業等の支援、地域福祉貢献事業などと多岐にわたって活動をしておりますが、中でも力を入れているのが、高齢者施設の慰問活動と、子ども食堂の開設、行政及び他団体の支援活動というところです。ちなみに今日は朝から、子ども食堂の野外活動として、さつまいもの収穫をしてまいりました。こどもたちにとって芋掘りの体験は初めてのことでのことで、みんな歓声を上げながら取り組んでおりました。



Q：ボランティア活動での悩みについて

ボランティア活動団体における苦労や悩みといえば、全国どこでも3つのKが悩みです。お金がない、会員が集まらない、会員の高齢化が共通の課題です。それを解決するために、行政の信頼度・信用度を構築するというのが一つ、さらにもう一つは、地域の他団体とコラボしながら活動を展開する。というのが、私たちのやっている知恵と工夫になります。

Q：今後の活動について

組織や団体が個別に活動し、孤軍奮闘する時代はもう終わっているのではという気がしています。これからは各団体や組織が、垣根を越えて手を組み、弱みをカバーし合いながら進むべきだという気がしています。今回は積極的にコラボの推進役を務め、地域づくりの先頭に立ち、地域共生社会の一翼を担いたいと考えております。

事例紹介

湘南たけやまサポートクラブ 阿部 勝男(会長)、奥山 憲一(事務局長) 神奈川県横須賀市

事例紹介のアーカイブ視聴はこちらから：

事例紹介インタビュー



社会参加章
『湘南たけやまサポートクラブ』
神奈川県横須賀市

[ナレーション] 湘南たけやまサポートクラブは、設立から10年、地域の高齢者や障害のある方の日常生活の支援に取り組んでいます。中でも依頼の多い庭木の手入れは、複数のメンバーが協力して一斉に作業を行い、その丁寧な仕事ぶりから、多くの家庭で繰り返し依頼を頂いています。

Q：活動を始めたきっかけ

10年前に私が、この町内の会長に就任した時、町内の色々な問題がありました。これを何とか解決していくこうということで、改革委員会を立ち上げました。その中で、一人暮らしの方、あるいは病気がちの方がいらっしゃるということで、これを生活支援するためのボランティアを立ち上げようということで発足いたしました。

Q：印象的な活動エピソードについて

このサポートクラブというものを、今は有償ボランティアということでやっておりますが、無償ということにいたしますと、タダだから好き勝手に使ってしまえというような考え方で利用される方もいたり、利用された方が申し訳ないということで、お菓子だとか、何をその返礼品にしようかみたいなことを悩まれるので、時給700円で費用処理をしています。したがって、我々が働いている間に差し入れだとか、そういったことは一切お断りしており、利用者の方に負担のかからないような配慮をして活動をしております。

Q：今後の課題について

私たちのボランティア組織は発足して10年になりますが、平均年齢がやはり7、8歳上がっているということで、新しいというか、若いというか、そういう人材が十分には供給されていないということです。これをどうやって克服していくかということが一番大きなポイントではないかと思っております。

